

## 映像作品における台詞終わりに付加する音楽の最適 付加時点

稲田, 環

<https://doi.org/10.15017/1807041>

---

出版情報：九州大学, 2016, 博士（芸術工学）, 課程博士  
バージョン：  
権利関係：全文ファイル公表済

氏名	稲田 環			
論文名	映像作品における台詞終わりに付加する音楽の最適付加時点			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	岩宮 眞一郎
	副査	九州大学	准教授	高田 正幸
	副査	東京藝術大学	教授	亀川 徹

## 論文審査の結果の要旨

本研究は、映画やテレビドラマなどの映像作品における台詞終わりに音楽を付加する際の音楽の最適付加時点を一連の印象評価実験により明らかにし、台詞終わりから音楽を付加するあいだに存在する「間」の効果を実証することを試みたものである。本研究を遂行するにあたっては、適切な研究指導を行った。

申請者は、実際に放送されているテレビドラマを対象として、音楽使用の実態とともに台詞終わりに音楽を付加する際の台詞と音楽の「間」についての分析調査を行っている。申請者が調査した12番組の全体時間中に音楽が使用されている割合は平均63%に達し、その音楽の中でも台詞終わりに音楽を付加することが72%になることを示し、台詞終わりに音楽を付加することが映像作品において重要な演出技法となっていることを示した。さらに、台詞と音楽の間が、怒りの感情を想像させるような台詞の後に音楽を付加する場合には0.50秒前後、愛の感情を想像させるような台詞の後では1.00秒前後、深い愛情、悲しみや悔しさ、諦めなどの感情を想像させるような台詞の後では1.50秒前後であることを示した。

さらに、申請者が撮影した対話場面の映像に系統的に様々な時点で音楽を付加した視聴覚刺激を用いて、台詞終わりに付加する音楽の最適付加時点に関する印象評価実験を行い、ドラマにおける分析結果と比較している。音楽の最適付加時点に関する印象評価実験により、音楽を付加するまでの最適な「間」は直前の台詞から感じられる感情に依存し、「怒り」の感情を感じさせる台詞では0.5秒程度、「愛」の感情を感じさせる台詞では1秒程度、「悲しみ」の感情を感じさせる台詞では1.5秒程度であることを示している。同時に、台詞のインパクトの関する評価実験を行い、最適な「間」で付加した音楽は台詞のインパクトを最大にする効果があることも明らかにし、台詞あとに音楽が流れるまでの「間」の有効性を実証した。そして、印象評価実験によって感情ごとに最適な間であるとの評価が得られた間は、実際のテレビドラマで制作者によって設けられた間におおよそ相当するものであった。制作者が自らの感性に基づいて設定した間は、科学的手法で求めた最適な間と一致していたのである。

申請者は映像作品の実態を反映したさまざまな条件での印象評価実験を積み重ね、台詞と音楽の間に設けるべき最適な間が台詞から感じられる感情によって定まり、付加する音楽と映像の調和・不調和には依存しないこと、台詞のあとの様々な時点で映像の切り替えがあった場合においても、さらに映像切り替え時のリアクション表情が変わったとしても同様に認められることを示した。また、台詞のインパクトが音楽を最適付加時点で挿入したときに最大になることに関しても、同様に様々な条件下で大きな変化はなかったことを実証した。

申請者が実施した一連の実験により、映像作品における台詞終わりに音楽を付加する際の最適付

加時点が示され、最適付加時点で音楽を付加することの効果が最大になることが実証された。登場人物の感情を表した台詞は、物語のストーリー展開において重要な役割を担う。この台詞を印象的にするためには音楽の役割は重要で、音楽の効果を最大限活かす「間」を科学的に実証した本研究の成果は学術的にも大きな意義のあるものであるだけでなく、映画やテレビドラマなどの制作現場にも適用可能なもので、関連分野に大きな貢献をすることが期待できる。

学位審査を厳正に実施した結果、本論文が博士（芸術工学）の学位授与に値するものと認める。